

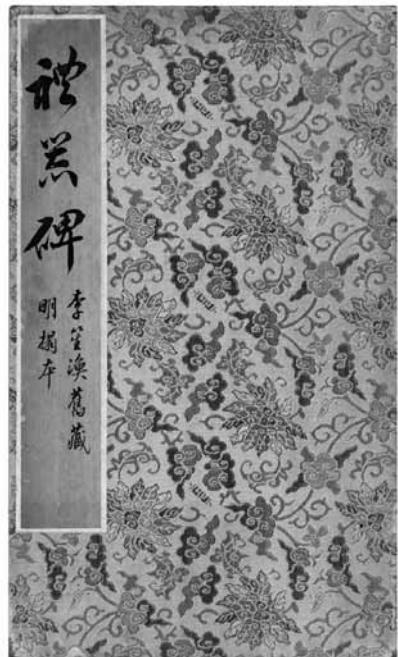
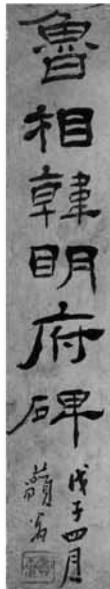


# 「落ち穂拾い記」② 楊峴・李嘉福遞藏旧精拓『礼器碑』(下)

(図版②) 礼器碑表紙



(図版③)楊峴筆内題簽・本文の巻頭



(図版④) 李嘉福・蔵印



(図版⑤) 楊峴・蔵印



(図版②)。筆者は不明であるが、李笙漁旧藏とあるように、拓帖の中には、李嘉福の所蔵を示す「嘉福」(白文)「笙魚」(白文)「嘉福所得金石」(朱文)「李嘉福日利」(白文)の鑑藏印が捺されている(図版④)。表紙を繰るごとに次の見返しの左端には、漢の八分隸を善くし、礼器碑を好んだ楊峴の独特的隸書体で、「魯相韓明府碑 戊子(1888)四月藐翁」と書かれた内題簽が添付されている(図版③)。帖中には、「見山」(朱文)の自用印が、また人物の後ろ姿の肖形印がある。これも恐らく楊峴の自用印かと思われる(図版⑤)。清末の二人の名家の手を経てきた帖である。装丁も拓本部分は、くり抜き装の丁寧な剪装であり、保存状態も大変佳く、虫損や汚れはない。この旧精拓の碑文の文字の中から、破損が少ない文字を精選し、集字して右頁の鑑賞図版とした。碑陽の初めは、やや重厚な趣であるが、行が進むに従い、筆画が、変化し、最後には文字の大きさも少し小さく小振りになり、文字構成も伸びやかに変化するところも見ることが出来る。

伊藤滋(書齋名・木鶲室)

2000年代の始めのころは、中国の国営の文物商店や古籍書店の倉庫には、多くの碑法帖類が所蔵されていたようである。顔馴染みの責任者の中には、部下の職員を倉庫まで同道させ、希望の碑帖拓本を探して来るよう手配してくれた人もいた。同道の職員に希望の書名を伝え、奥から探し出してくれた碑帖を確認し、購入希望のものを責任者の所に持ち帰り、責任者の確認を経、その場で価格を決定し、購入した事もあった。2002年の末、そうして求めた中に、欠字や拓紙の裂損のないほぼ完全な旧精拓本の『礼器碑』がある。擦拓で字画が鮮明に拓され、拓調はやや淡く、石面の微妙な凹凸まで鮮やかに見る事が出来る(右主図版参照)。これまで紹介してきた礼器碑とほぼ同じ、清朝初期頃の拓である。拓調が優れている他に、清末の書法家・楊峴(1819~1896、字は庸齋・見山と、季仇・藐翁・遲鴻殘叟などと号す)、金石家・李嘉福(1829~1894、字は麓萃、笙魚・北溪・石佛庵主などと号す)の遞藏を経た帖である。古雅な花柄の布表紙に行書で「礼器碑 李笙漁旧藏明拓本」の題簽がある(図版②)。筆者は不明であるが、李笙漁旧藏とあるように、

# 書道芸術院 令和の群像 (2022)



第75回書道芸術院展 「春望」

佐 藤 菜 扇 書

## 「畔啄同時」



佐  
藤  
菜  
扇

私は千葉県立佐原高校に入学し、種谷萬城先生に出会いました。以来、ご指導頂いております。曹全碑に始まりその他隸書、木簡、金文が好きで創作の基盤としています。今回、書道芸術院展75回展にあたり私は他の四字熟語で作品を書こうと思っていました。素材を決めてからは入念に文字調べます。その時なるべく多くの字書を見ます。最初に選んだ素材の一文字が調べきれずお稽古の際に萬城先生に質問をしました。先生は教室にある字書を何冊も見せて下さり、私の疑問は解消され作品制作に臨めました。

書いたもの持参し評価して頂き、改善点を自分で改めて見詰めなおしてみます。頭の中にイメージしていたものと書きあがった作品。どうもかけ離れています。紙のサイズを変え、筆をえてみました。「春望」は今回の作品です。この言葉に決めてから、甲骨文字、金文を手当たり次第に調べました。そして書稿をいろいろ

ると考えました。彫られた文字、鋳込まれた文字を筆で表現していきます。太い筆一本で書いたり2本、または3本で書いたり。いろいろと挑戦しました。取つておくように言われた作品を改めて眺め、これからどう進めていくか?と悩みます。同じように:「と思って、同じようには行きません。悩みながら書いていると、もう少し書いたら何か変わるかもしねないという淡い希望も生まれてきます。「春」は書いていて楽しく「望」になると止まってしまいました。書いていて「どう線を引こう?」と。最後まで「望」は描み続けました。落款も苦手な私ですが、今回は印のみではバランスが悪いと考え入れました。下見会の日まで、何度もご指導いただきました。ギリギリまで書いて選定して頂いたので後悔はありません。「畔啄同時」の境地です。課題はまだたくさんあると自負しております。余白の美しい、強い線の作品が目標です。

香川峰雲先生の遺作展を拝見させて頂き、感動し憧れの気持ちが沸々と湧いてきました。これからも萬城先生に問いかけながら精進して参りたいと思います。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

創立75周年記念書道芸術院展  
役員作品全国巡回展四国・北陸・  
山陽各地で盛会に開催

◎四国支局巡回展 高知・安芸書  
道美術館で

3月30日～4月3日、高知県安芸市立書道美術館を会場に開催された。例年の中高市文化プラザかるばーとは改修のため使用できず、今回は安芸市立書道美術館の全面的なご協力をいただき開催に漕ぎ着けることができた。

美術館の展示ホールを1・2階とも借用し、香川峰雲先生遺作を含め巡回展全作品、及び地元四国支局の役員・会員は院展とは別の新作を出品発表されていたのが特記される。

4月2日、本部役員として辻元大雲理事長・下谷洋子常務理事が日帰りの日程であったが会場を訪れ、同日午後2時より会場にて作品解説・席上揮毫を行った。院の創立からの概要、院の特色など全般につき辻元より、作品の特徴、四国支局会員作品の特色などを下谷洋子より解説。その後別室にて両名による席上揮毫を行った。現代詩文書作品を辻元、かな作品を下谷が披露。さらに今回出品作品より「辻元大雲の眼」、「下谷洋子の眼」各3点を選考し、発表。該当者に小品作品をその場で揮毫し贈呈のハプニングプレゼントもあ

り、大きな反響があった。川島舟錦四国支局長、大野祥雲顧問などによる企画で、好評であった。

会場をご提供くださった安芸市立書道美術館へは、館長からご要望に応え辻元・下谷両名から作品（辻元連落俳句作品軸・下谷半切かな作品軸）を寄贈し、ささやかな謝意を表した。



会場風景

◎北陸支局巡回展 富山・高岡文化ホールで 満開の桜と共に  
4月8日～10日、富山県高岡文化ホールを会場に、北陸支局の主力団体「書道舍」会員による支局展を併催して開催された。

巡回展作品は歴代会長作品を含め、さらに香川峰雲先生遺作もホール2階のメイン会場にバランスよく展示され、地元会員作品は1・2階に分けて、特に1階メインホールには書道舍主要幹部4名による大作を中心充実した展示内容となつた。



北陸支局巡回展 会場風景

回は4月当初という時期の関係もあり会員作品のみの展示となつた。

4月9日には院本部から辻元大雲理事長、小竹石雲常務理事が会場を訪れ、作品解説などを行つた。院創立からの歴史、漢字から前衛書まで書の総合的な部門を有する特色、さらに北は北海道から南は九州まで全国13の総支局体制を維持する全国組織などが大きな特徴など、限られた時間であつたが、参考された方々へのメッセージとしてお話をさせていただいた。小竹常務理事からは作品制作への姿勢、書道舍の特色を生かした、斬新、意欲的な作品を期待するなどの意見が述べられた。

その後会場内で辻元・小竹両名によると作品揮毫を、色紙、半紙など小さめの用紙に古典臨書・俳句など様々に披露させていただいた。後日抽選で会員諸氏に寄贈される予定。

山陽支局会員作品は、75回書道芸術院展出品作品をそのまま再度展示。多くの方が東京会場にお出でになれなかつた関係もあり、充実の展示となつた。

4月20日には辻元大雲理事長が会場を訪れ、作品研究会を行つた。司会の藤井龍仙さんの軽妙な進行で、質疑応答形式の多様な内容の研究会となつた。

4月24日には下谷洋子、小竹石雲両常務理事によるトークショーが開催され、参考の皆さんからの質問や、司会からの質疑などを交え、有意義な作品会解説、交流会となつた。

◎山陽支局巡回展 岡山天神山文化



山陽支局巡回展 作品解説会

賞作品も併せて展示されていたが、今前回(5年前)は書道舍主催学生展入賞作品も併せて展示されていたが、今

4月19日～24日 岡山天神山文化

ラザを会場に、1・2階の展示ホールを埋め尽くす充実の展示となつた。1階メインホールには巡回展作品が余裕あるゆつたりとした陳列で、香川峰雲先生遺作も移動作品すべてと共に篆刻作品は印材まで展示ケースに飾られ、観者をくぎ付けした素晴らしい会場構成であつた。小竹石雲・大平邑峰支局長の労に感謝。

山陽支局会員作品は、75回書道芸術院展出品作品をそのまま再度展示。多くの方が東京会場にお出でになれなかつた関係もあり、充実の展示となつた。

4月20日には辻元大雲理事長が会場を訪れ、作品研究会を行つた。司会の藤井龍仙さんの軽妙な進行で、質疑応答形式の多様な内容の研究会となつた。

4月24日には下谷洋子、小竹石雲両常務理事によるトークショーが開催され、参考の皆さんからの質問や、司会からの質疑などを交え、有意義な作品会解説、交流会となつた。

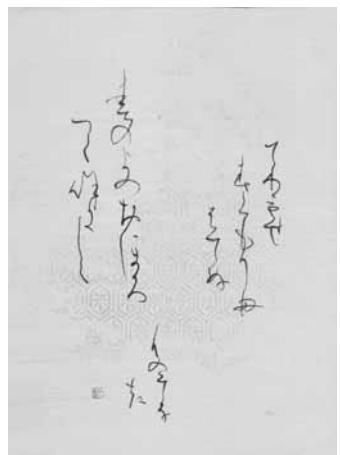
## かな基礎基本講座(24)

下谷 洋子

### かなの書式 散らし書き⑦

〈参考作品〉

下谷洋子書

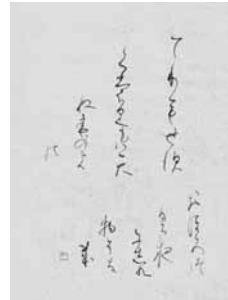


2年間のこの講座は、  
一先ず今回で終了します。  
そこで最後に、同一和歌  
でのかな表現の多彩さを  
紹介します。

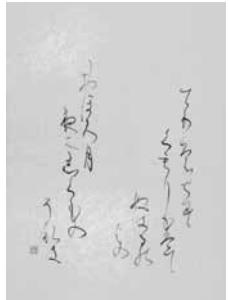
照りもせず舞りもはてぬ春の夜  
の牘月夜にしきものぞなき  
(大江千里)



勝山初美書



大辻多希子書



木村東舟書



九條純代書

## 現代詩文書基礎基本講座(24)

小竹石雲

### 【温泉銘】唐 太宗 (648年)

唐・太宗による撰文並びに書。驪山温泉（華清池）の靈効や風物を述べた行書碑であるが、原碑は宋代に失われた。フランスのペリオが敦煌でこの碑の拓本を発見した。晋祠銘と同様に氣宇が雄大である。

#### ・原帖



#### ①写実的臨書



#### ②発展的臨書



- ②発展的臨書
- ・自由な伸びやかさを追求していくうちに米芾に近づいてきた。
  - ・また字形はやや縦長にし、広がりをもたせるように伸びやかに運筆した。

- ①写実的臨書
- ・雄大さを出すため、スケールの大きい躍动感溢れる堂々の書。
  - ・根底には王羲之の書がある。

- ②発展的臨書
- ・義之の確かな筆法が根底にない、粗雑になり格調が下がってしまった。

\*お知らせ  
次号の6月号(734)から千葉蒼玄先生の「前衛書」  
基礎基本講座」が始まります。

# 第75回記念書道芸術院展（併催 第73回全国学生書道展）

工審査 令和3年11月3日

（～7日）

2 運営委員会  
才優賞 A個人賞 B団体賞

3 審査会員  
実行委員長 辻元大雲

4 運営委員会  
運営委員長 辻元大雲

6 一般表彰式（帝国ホテル）  
令和4年2月6日

○運営委員長 辻元大雲  
辻元大雲 石井明子  
稲垣小燕 尾形澄神  
川島舟錦 板垣洞仙  
小竹石雲 尾形澄神  
坂本素雪 後藤大峰  
小浜大明 北村白硫  
種谷萬城 小林琴水  
津田海仙 下谷洋子  
浜田堂光 千葉蒼玄  
名越蒼竹 下谷洋子  
高田幽玄 半田藤扇

7 祝賀懇親会（帝国ホテル）  
令和4年2月6日

8 出品作品サイズ（単位cm）

第75回記念書道芸術院展（併催第73回全国学生書道展）について、令和3年3月6日開催予定の理事会を書面決議により執り行い、その大綱が次のように決定された。

回 全国学生書道展（併催第73

3年3月6日開催予定の理事会を書面決議により執り行い、その大綱が次のように決定された。

## ○第75回記念書道芸術院展

1会期 令和4年2月5日㈯

2会場 東京都美術館(上野公園内)  
（2月11日㈮・祝）

- ・鑑別・審査
- 令和3年12月11・12日
- イ 審査会員、審査会員候補の部
- ・書類搬入 令和4年1月19日
- ・作品搬入 令和4年1月27日
- ウ 審査
- ・審査会員候補

(5)一般公募 書作品 O 35 × Q 65 × R 30 × S 51 × U 35 × T 30 × 7000円	(4)無鑑査 M 46 × H 121 × 121 176 242	(3)審査会員候補 I 61 × K 91 × 121 182	(2)財団評議員・参考・審査会員 D 61 × F 85 × G 106 × E 79 × 136 182	6 一般表彰式（帝国ホテル） 令和4年2月6日
---	--	--	--	----------------------------

1募集規定 ア出品資格	○第73回全国学生書道展	11実行委員長 実行副委員長	12事務局長 事務局次長	13部長 総務部長 審査部長 陳列部長 会計担当 祝賀会部長 種谷萬城 桐岡銘紀 片岡豪峰 下谷洋子 後藤大峰
----------------	--------------	-------------------	-----------------	---

1募集規定  
ア出品資格

ア出品資格

第1部 幼児、小学生

第2部 中学生

第3部 高校生

第4部 大学生、専門学校生

イ部門 ①半紙の部 ②切札の部

30歳以上  
30歳未満および70歳以上

一般公募出品料  
（令和4年1月1日現在）

4作品解説会（都美術館）

審査会員 令和4年1月29日

5学生展表彰式（帝国ホテル）

令和4年2月5日

8・11日

○運営委員会  
第75回記念書道芸術院展 運営委員会  
会を令和3年6月19日の理事会に合わせ、書面により行われた。  
\*審査会員の作品について

（褒賞）

書道芸術院春華賞（1名）

第75回記念書道芸術院展 運営委員会  
選考は運営委員（財団理事・監事）が担当。（名誉会員、参考会員、選考委員、参考会員で過去の理事・監事経験者、過年度受賞者は対象外）

第75回記念書道芸術院展 運営委員会  
ア出品資格

ア出品資格

ア出品資格

ア出品資格

ア出品資格

ア出品資格

ア出品資格

A賞審査員（6名）

A賞選考委員（9名）

中央審査員（19名）

4指導者作品展示（12点）

A賞審査員（6名）

ア出品資格



## 特集：第75回書道芸術院展

輝いた。

### ○陳列部

2月4日、三浦鄭街・陳列部長のもと、院展、学生展、指導者作品展を含む計5492点という膨大な数の作品展示を行う。今回も、陳列部員を中心、作業にあたる人員を少なくし陳列業者（川端商会）に作業員の増員をお願いした。

### ○記者会見

毎日新聞社ほか報道関係、評論家の方々にお集まりいただき、実行委員長による全体解説、常務理事からは、記念展企画の香川峰雲先生遺作の特別展示及び歴代会長の遺作やご逝去された役員の遺作など特色などの説明を行った。

### ○評論家の眼

日本書道美術院会長・鬼頭墨峻様、前五島美術館副館長・名児耶明様に依頼、作品評価をいただいた。批評は作品脇に掲示し、さらに印刷して参觀者にも配布した。

### ○「鬼頭墨峻」の眼

廣瀬幸枝、菊田杏仙、九條純代の各氏。

### ○「名児耶明」の眼

武山櫻子、九條純代、熊谷翔、大石仙岳、大隅晃弘、斎藤理舟の各氏。

### ○「書道芸術院の書・15人の書」出品者の軌跡

昨年秋季展併催としてアートサロン毎日で開催した企画展は、その後の作家の足跡として、会場内に集約

して陳列した。

### ○作品解説会・ワークショッピング

全て中止

### ○書道芸術院展表彰式

中止

### ○書道芸術院展表彰式

中止

### ○祝賀懇親会

中止

### ○全国学生書道展表彰式

中止

### ○書道芸術院創立75周年記念事業

中止

### ○香川峰雲遺作展示

中止

### ○巡回展

中止

### ○香川峰雲遺作展示

中止

### ○香川峰雲遺作展示

中止

### ○香川峰雲遺作展示

中止

### ○物故者慰靈祭

中止

新規書部門としての刻字作品計48点が陳列ケース展示も含め、所狭しと飾られ、多くの参觀者が感動を与えた。

### ○功労者表彰

表彰式は中止した

### ○功労者表彰

大辻多希子、金井如水、熊谷翠風、宗苑、最首、清水翠径、山田梓江

### ○功労者表彰

香川峰雲遺作展示

### ○功労者表彰

これまでのご逝去された皆さんの作品

### ○功労者表彰

を展示了。

### ○功労者表彰

香川峰雲遺作展示

### ○功労者表彰

これまでのご逝去された皆さんの作品

### ○功労者表彰

を展示了。

### ○功労者表彰

これまでのご逝去された皆さんの作品

### ○功労者表彰

を展示了。

### ○功労者表彰

これまでのご逝去された皆さんの作品

### ○功労者表彰

を展示了。

### ○総務部

学生展、院展とも総務部は、書類搬入から作品搬入、整理、審査準備、陳列準備、撤回、搬出まで、江本興

舟、桐岡銘紀、お二人の部長には、外出自粛にもかかわらず、長期に亘りご苦労願った。

### ○審査部

学生展は菊池富美子副審査部長、一般は種谷萬城審査部長のもと、事務局・総務部と連携し、コロナ禍の中、審査、事務処理とともに順調に進めていただいた。

### ○会計部

会計部はやはりコロナ禍で不自由な中、学生展と第75回記念書道芸術院展の会場にコーナーを設けて、香川峰雲先生の現代感覚溢れた篆刻作品や新しい書部門としての刻字作品計48点が陳列ケース展示も含め、所狭しと飾られ、多くの参觀者が感動を与えた。

### ○運営事務局

今回も、院展、学生展共に、運営の全て新型コロナウイルスの影響を

受け、運営事務局には、多大なご苦

労をおかけした。表彰式が中止となっ

たこともあり、賞状・賞品を含め、後日の入賞・出品者名簿の発送など、

これまで以上の作業も多々、その処

理の難儀に対し、山口仙草事務局長、片岡豪峰事務局次長には、深く感謝

申します。

また、あわただしく企画された

「香川峰雲遺作展示」であったが、

内容も充実し陳列もバランスよく、

観覧された方々から好評を博した。

香川倫子先生、三森憲香先生初め書

香会の皆さんには作品選別から目録、

陳列等種々に亘りお世話になり、厚く御礼申します。



香川峰雲遺作展



記者会見

## 書道芸術院創立75周年記念

# 役員作品巡回展

## 併催 南関東総局展

会期 令和4年3月8日(火)～13日(日)

会場 千葉県立美術館5・6室

実行委員長（南関東総局長）

種 谷 萬 城

書道芸術院創立75周年記念役員作品

巡回展・南関東総局展は、各総局・支局のトップを切って3月8日から13日まで、千葉県立美術館にて開催しました。第6室には、香川峰雲遺作展示9点。役員作品巡回展（歴代会長・財団役員）63点。南関東総局の財団役員作品12点。第5室には南関東総局の常任総務45点、総務19点、審査員25点、審査会員候補82点、無鑑査109点、公募37点）の作品を展示しました。

南関東総局は、千葉、茨城県在住の会員から成り、会期が第75回書道芸術

院展の会期と近かったので、本展出品作品（褒状以上の希望者）及び、入選の希望者まで含めて陳列しました。出

品点数は計320点でした。

12日(土)に予定した講演会（辻元大

雲理事長）と祝賀懇親会は、コロナウイルス感染状況を鑑み中止しましたが、同日の午後2時から、会場にて作品解説会を急速実施しました。辻元大雲理事長が、書道芸術院の沿革と香川峰雲

遺作展示について、下谷洋子常務理事が役員作品巡回展について、種谷萬城

が南関東総局展について、解説しました。約50名の方々が参加し、約1時間の充実した時を過ごしました。

来場者は計85人を数えました。南関

東総局展には、漢字、かな、現代詩文、刻字、前衛の5部門の作品が揃い、書風もバラエティに富み、好評でした。

コロナ禍の影響で、当初の計画通りには実行できず、残念さは残りましたが、南関東総局の会員を始め多くの方々より感謝申し上げ、お礼申し上げます。心



下谷洋子常務理事の作品解説



辻元大雲理事長の作品解説



香川峰雲遺作展示



作品解説会



役員作品巡回展



役員作品巡回展



南関東総局展 役員作品



南関東総局展 役員作品



南関東総局展 審査会員候補入賞作品



南関東総局展 常任総務作品



南関東総局展 無鑑査入賞作品

# 書道芸術院創立75周年記念

## 役員作品巡回展

### 併催 東北総局展

会期 令和4年3月18日(金)～23日(水)  
会場せんだいメディアテーク6階

実行委員長(東北総局長)

浜田堂光

コロナウィルス感染症の拡大する中において1年後の総局展の開催準備は、4月に展覧会場のせんだいメディアテークに申し込みをした。決定は競合抽選で決まる。6月予約申し込みの内定が届いた。

この先是東北総局規約にもとづき作業を進めるが、常任総務以上での役員会が開けず規約の一部改訂を行う。検討必要事項は「総務」8人に諮り、東北総局協賛費の一部減額を決めた。

祝賀会(3月20日)会場はコロナ感

染症対策を県指導のもと対応している

メトロポリタン仙台に9月末予約した。

1月末日に具体的打合せとして、担当

に太田蓮紅先生、熊谷示苑先生とした。

総務(会場・受付担当)は千葉蒼玄先生

生とし、陳列・撤去関係は後藤大峰先

生、尾形澄神先生、佐藤無極先生にお願いし、仕事を進める上での補助者の人選も併せてお願いした。会計は飯沼恵鳳先生として記念品購入を担当した。

会場受付はコロナ感染症対策としてせんだいメディアテークからの指示で、来場者受付前記名カードの提出、手の消毒スプレー、必ずマスクをつけて作品を観る、「密」状態をさける等きびしい指導があり、最大限守るように心掛けた。

陳列は東北総局関係512点、役員作品巡回展は歴代会長・香川峰雲先生遺作、書道芸術院役員作品・全国学生書道展

大賞作品合計77点、併せて589点となつた。陳列作業を出来る丈早い時間に終える計画で、地元表具屋さんの手を借り、搬入前に作品裏面に取付金具を取付、また壁面取付番号票を添付して頂く等々大変事前準備をして頂いた。3月17日(木)朝9時からの搬入に万全を期して頂きましたが、前日3月16日午後11時36分頃、宮城・福島を震度6強の地震発生、会場は17日全館休館となりました。18日朝からあいにく霧混りの小雨となりましたが、搬入・陳列作業道を帰京された。総局関係の陳列も順調にはかかり、午後3時までに終わり解散としました。19日から23日まで5

日間の総局展となりました。観客数は769名でした。

16日の地震による影響で東北新幹線下り「やまびこ」が白石蔵王駅を前に脱線不通となり、開会式に来仙予定の常務理事小竹石雲先生が足止めとなりました。地震御見舞と東北総局会員に激励文を送って頂きましたが、開会時間が過ぎても観客まばらで開会式は中止とし、小竹石雲先生からのメッセージは祝賀会の挨拶の中で紹介致しました。

祝賀会の進行にも地震の影響がありました。日帰り来仙予定の理事長辻元大雲先生、常務理事の下谷洋子先生がキャンセルとなりました。毎日新聞三岡昭博部長さんは来仙はバスで、帰りは飛行機で祝賀会に出席され、ご祝辞を頂きました。辻元大雲理事長からの

労いのメッセージは理事長挨拶のところで後藤大峰先生に代読して頂き出席者に紹介しました。祝賀会各場はコロナ感染症対策の県の指導による準備となっていましたので、我々としても「密」を避けるため「受付」所を廃止し、事前に参加者に席表、会場開き時刻、祝賀会次第を送りました。スムーズな入場・着席・会式の開始、進行となりました。祝賀会では永年の功労に対し出席参与会員に記念品を贈りました。書道芸術院最高賞の春華賞受賞の大町青蓮さんに入賞記念品と花束を贈り、他の入賞出席者39名に記念品を贈りました。2時間の制限の祝賀会でしたが、食事も飲み物も大変美味しいものを久し振りに頂いたとの声あり、後藤大峰先生・千葉蒼玄先生の万歳三唱でお開きとしました。

## 毎日新聞

宮城 2022年(令和4年)3月19日(土)



## 自由奔放な大作一堂に

書道芸術院役員展 仙台・きょうから

書道芸術院の創立75周年を記念した役員作品巡回展が19日、仙台市青葉区の仙台メディアテークで始まる。宮城・福島・県の会員作品など計約700点を集めた東北総局も併催される。23日まで。入場無料。

16日深夜に発生した地震の影響で開幕を予定より1日遅らせた。香川峰雲(1904～77年)や加藤柳(1909～98年)など歴代会長のほか、ランプリにあたる春華賞を受賞した大町青蓮庄の前衛書「ひたむきに」も展示している。

総局代表の浜田堂光委員長は「表現が多彩で自由奔放な書道芸術院の作品を楽しんでほしい」と話している。

【石丸整】



役員作品巡回展



東北総局展 会場風景



会場風景



巡回展 役員作品の前で



学生展 大賞・準大賞作品



会場風景



来賓あいさつ 毎日新聞社 三岡昭博様



祝賀会 後藤大峰常務理事あいさつ

# 書道芸術院創立75周年記念

## 役員作品巡回展

### 併催 四国支局展

会期 令和4年3月30日～4月3日

会場 安芸市立書道美術館

実行委員長（四国支局長）

川島 舟錦

あちらこちらから桜の便りが聞こえるうららかな春の日に、安芸市の市立書道美術館で巡回展が開催されました。

広い会場が改修工事のため使用できず、巡回展の役員の先生方63点と四国支局員83点の作品が会場に展示できるかぎり採用ましたが、業者のご協力もありお昼前に無事終了、安堵しました。

4月2日(土)には、辻元大雲理事長

と下谷洋子常務理事をお迎えし、作品解説会、揮毫会を行いました。懸案事項であった安芸市立書道美術館への作品寄贈も今回実現し、大変喜んでいた

だきました。お二人の先生からしっかりと安芸市教育長へ作品が手渡されました。

（作品解説会）

解説会に先立ち、辻元理事長からコロナ禍で日常、経済や芸術文化活動に

多大な影響が及んでいるが、早い収束と平安な日々の訪れを願うとのお話をありました。

続いて、院の歴史についてお話があり、「書道芸術院は昭和22年11月23日創立、翌23年1回展を開催以来、今年で75回の節目を迎える。創立精神を重んじ、各々が創意工夫の中で表現する喜びを感じながら歴史を積み重ねてきた。

今回は歴代会長、香川峰雲・香川春蘭・中島邑水・加藤翠柳・種谷扇舟・恩地春洋各先生のご遺作も巡回展示している。諸先生方のご尽力の賜物である。

私たち、その精神を引継ぎ精進していかなければならぬ。」と力を込めて述べられました。

その後、下谷常務理事より作品について説明をいただき、「今回の巡回展では前衛書が目を引く。文字や心象からライメージが生まれ、書を完成してい

る前衛書の発想や表現は、大いに学ぶべきものである。」と締めくくられ、会場に集った者は、あらためて75年の芸術院の歩みを心に刻み、これからのお書きに身を引き締めました。

（作品揮毫会）

揮毫会は、狭い会場ではありました  
が、約70名の参加者が息を呑み、食い入るように辻元理事長の現代詩文書と下谷常務理事のかなの揮毫を拝見しました。狭いからこそその利点もあり、両先生の動きを間近で見せていただける恩恵に預かりました。「息遣いや筆遣い、発する言葉が身体中に響き渡るよ

うに伝わってきた」と皆に大好評でした。辻元理事長が、歌人吉井勇が土佐に隠棲した折に詠んだ句「空海をたの國へ来にけり」を揮毫してくださると拍手喝采。感動の渦の中、終了となりました。辻元理事長、下谷常務理事、実技のご披露、本当にありがとうございました。

会期中、たくさんの方に足を運んでいただき、75回記念役員作品巡回展併催四国支局展は閉幕となりました。歴代会長の先生方、役員の先生方の作品から、書人としての生き方、書への情熱を持ち続けることを教示していただきました。会場に漂う温もりと慈愛のまなざしに守られた5日間。心に深く刻まれる巡回展でした。ご協力をいたしましたすべての皆様に心から感謝いたします。

大山和歌子・尾崎仁水・佐野文子  
吉永杏花・川村美泉



巡回展 役員作品



安芸市立書道美術館



安芸市教育長へ作品贈呈



下谷洋子常務理事による作品解説



揮毫風景



辻元大雲理事長による揮毫前の説明



下谷常務理事による揮毫



辻元理事長による揮毫



美術館へ作品寄贈



両先生による揮毫

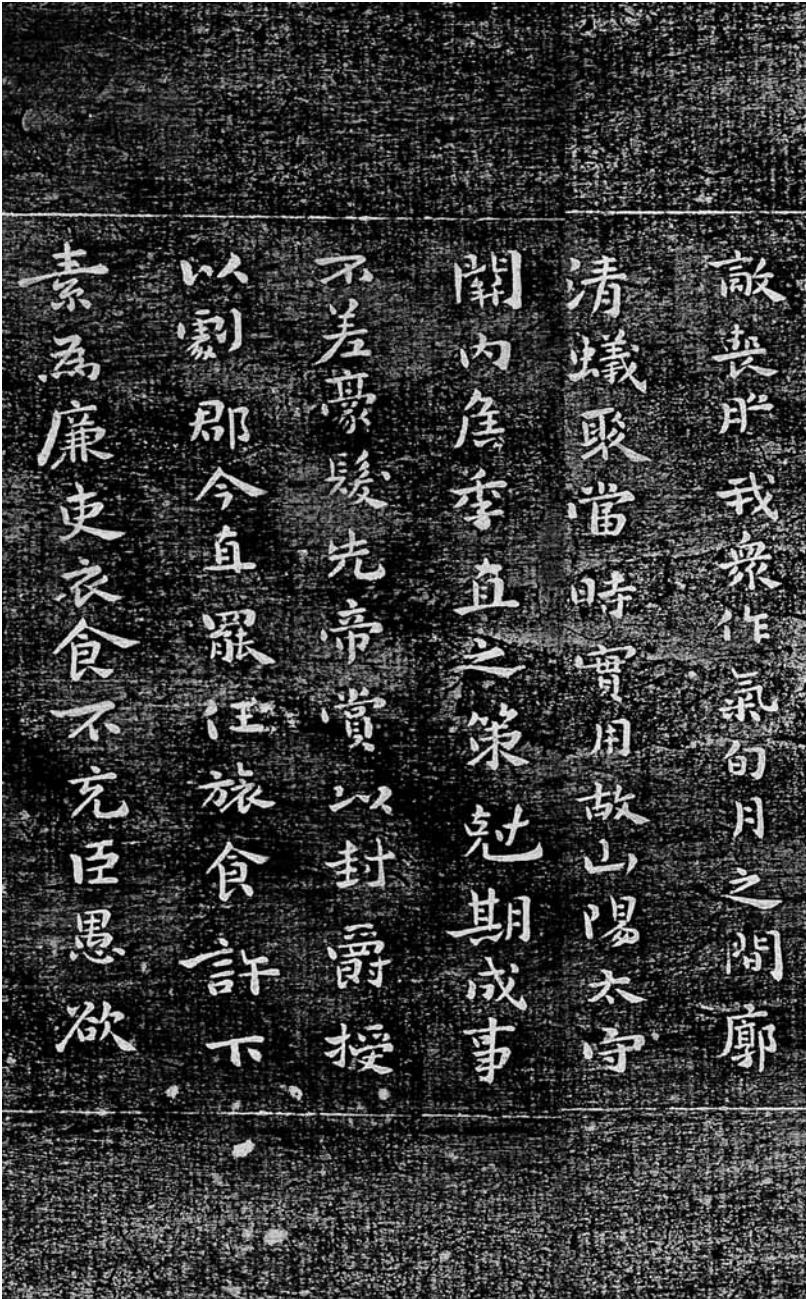
薦季直表（魏・鍾繇）

②

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

II (A. 大作の部 每百葉叢書会員・会員サイズ以内 2×6片・金額も可)  
B. 小品の部 一切以降以内 全經緯(約6×68)以内可  
当該古典の左記掲載部分以外も可。

&lt;真賞斎帖より&gt;

(掲載図版・87%に縮小)

（解説）  
 薦季直表は、「九成宮醴泉銘」や「孔子廟堂碑」などの初唐の楷書とは特徴が異なる。薦季直表の字形は、おおむね扁平で、懷が広い。隸意を帶び、やや行書的な用筆も見られる。また、丸みを帯び、温かみが感じられる古意豊かな線質に特色がある。気脈を貫通させ、ゆったりとした運筆を心がけることが大切である。

（解説）  
 薦季直表は、「九成宮醴泉銘」や「孔子廟堂碑」などの初唐の楷書とは特徴が異なる。薦季直表の字形は、おおむね扁平で、懷が広い。隸意を帶び、やや行書的な用筆も見られる。また、丸みを帯び、温かみが感じられる古意豊かな線質に特色がある。気脈を貫通させ、ゆったりとした運筆を心がけることが大切である。

(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

# 古筆鑑賞

(218)

## 高野切第一種 紀貫之

(2)

### かな研究部臨書課題

B.A.

小品の部

大作の部

半切以上

半切以内

（縦横自由）

別紙を裁断して貼付も可。半透紙は半紙サイズに切って使用のこと。

左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

△いずれも左記の掲載以外も可。△

### ※掲載図版・70%に縮小

#### 〈解説〉

高野切第一種はこの美麗な料紙の上にゆったりとした筆運びで書写され、気品に富む優麗典雅な情緒を醸し出している。

高野切はいれも、白麻紙に雲母砂子が一面に散りばめられた清楚で、奥ゆかしい料紙に書かれている。

高野切第一種と同筆の古筆の中でもっとも格調の高い美しさを示す優品として尊重されている。

高野切第一種と同筆の古筆には、「伝藤原行成筆」「大字和漢詩集」「傳宗尊親王筆」「深窓秘抄」などがある。

(編集部)

※古筆は原寸（以上も可）  
で臨書しましょ。

(三井文庫蔵)

※落款を必ず入れる。署名もしくは〇〇臨(押印のみ可)

習い方解説 (二)

釣月樵風 「墨場必携続対句選」  
(月を釣り風に樵る)



書体=自由

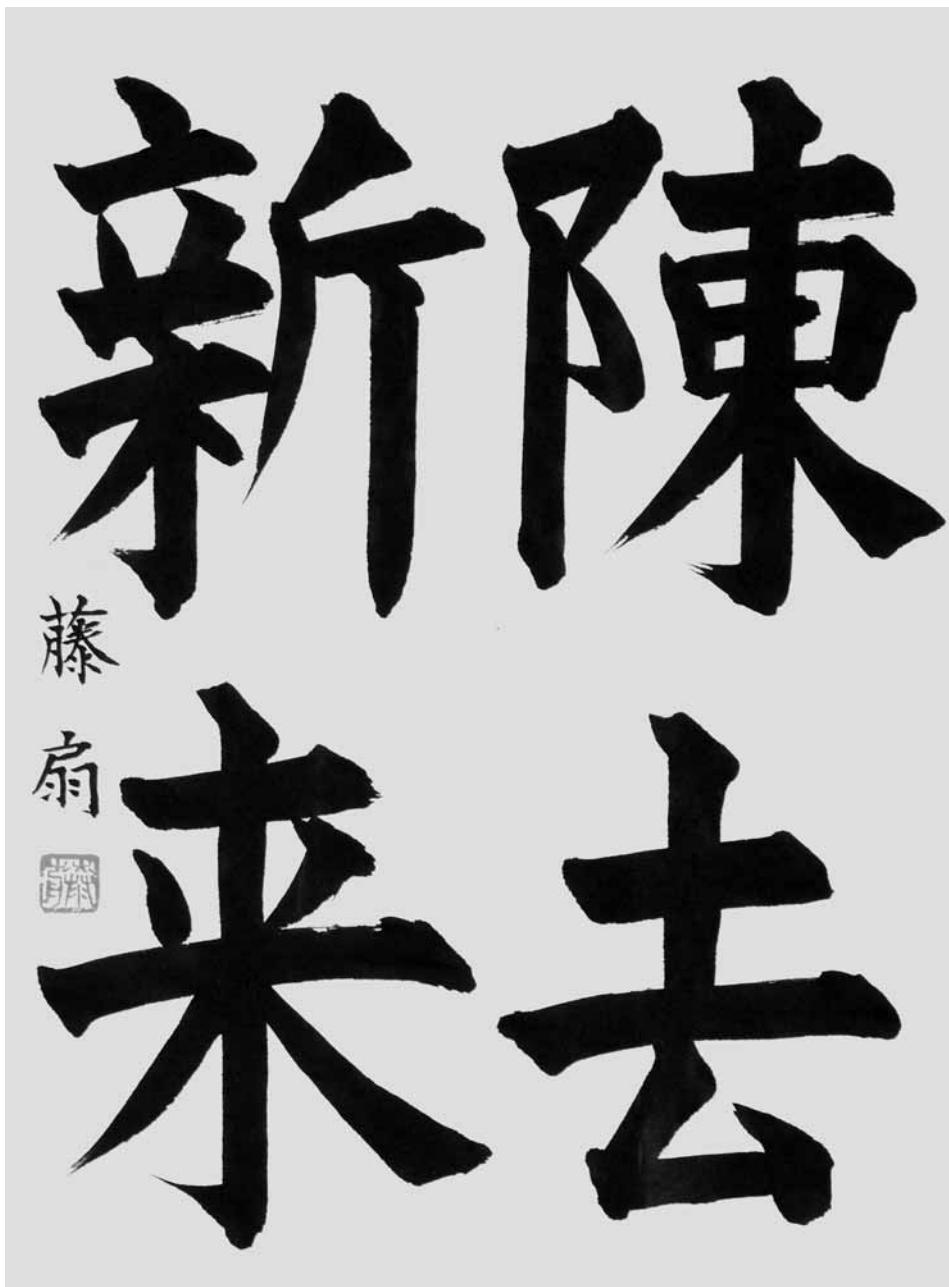
今回も4文字表現です。草書を  
交え、動きある表現を試みました。  
やや厚目の線質は羊毫中鋒筆に  
よる効果です。顔真卿の祭姪文稿  
に通じる筆致も意図しています。  
運筆のリズムが線質の変化や造形  
面に大きく影響します。筆を運ぶ  
姿勢や呼吸が如何に大切な要素と  
なるか。普段の基本的な古典臨書  
などの基礎力が試されます。

釣月樵風 よみ(月を釣り風に樵る)

習い方解説 (二)

半田 藤 扇

陳去新來 「現代書作必携」  
(陳去り新来る)



書体＝楷書



※兼毫筆を使用

特に九成宮醴泉銘は「楷書の極則」と言われています。角ばって  
いても中に丸みがあり、横画の引き方は、強靭でしなやかな弾力が  
あります。

歐陽詢の特徴は、漢隸・章草など種々の要素を取り入れ思い切つた新しい様式を生み出しました。心を引きしめて書いてみましょう。

〔参考作品〕雁塔聖教序風の楷書

かな規定 初段以上 【六月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

下谷洋子

春愁や草を歩けば草青く  
(青木月斗)

参考作品

## 習い方解説 (二)

18

春愁や

草青く

春愁  
や  
草  
青  
く

印

春愁は、ともすれば気分は沈みがち、今日は、草の青さまで切なく心にしみわたって感じられる。(春愁)  
春の季語)

今、まさに、この句同様の思いにかられている人も多いかと思います。どうすることも出来ない世情に心が痛みます。せめて、自らの足もとを一心に、誠実にでしようか。

句意を打ち払うように、思い切りよく筆を運びました。紙面を大きく扱って、何かが伝わって来る作品であります。

連綿を用いてますが、敢えて連綿を省いて、読みやすいかな作品を求めるのも一案でしょう。字数が少ないので、余白が単なる書き残しでないよう、意識を高めてください。

参考作品

よみ方 春愁や草(久佐)を歩(ある)け(希)ば(盤)草青く(久) 洋子か(可)く(久)

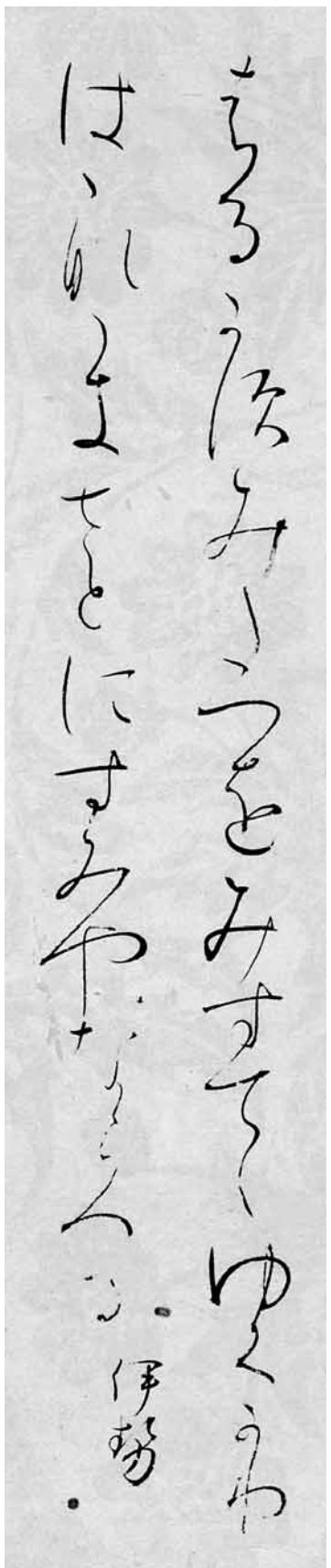
\* 料紙は半紙版(30×24.5cm)を使用しましょう。

創作

かな規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 は(者)るが(可)す(須)みた(多)つをみすてて(ハ)(ゆくか)(可)(り)(利)  
はは(ゝ)な(那)な(ゝ)き(キ)ひとにすみやならへる伊勢

### 習い方解説 (二)

善養寺紅風選書

吉野川岸の山吹吹く風に  
底のかげさへうつるひにけり

「古今和歌集」

漢語を活かし、8行で収めまし

た。中央部を2~3字として行間  
を広く取り、高まりとしました。

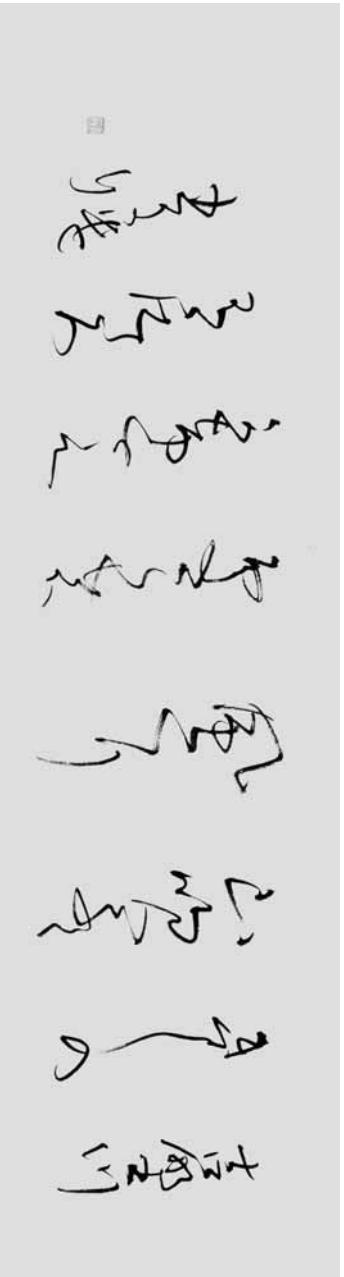
1行の字数が少なく流れが出しに  
くいですから、続けるつもりで運  
びましょう。

「かけ」で少し墨を入れましたが、  
他に換えるなど工夫してください。



かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書



よみ方 吉野川岸(幾し)の山吹吹(ふ)く風(耳)  
底(處この)の(農)か(可)げ(希)さへ(部)う(有)つ(徒)ろひ(悲)に(尔)け(遣)り

創作

出品券  
貼付位置

\*ヨコ形式に限る

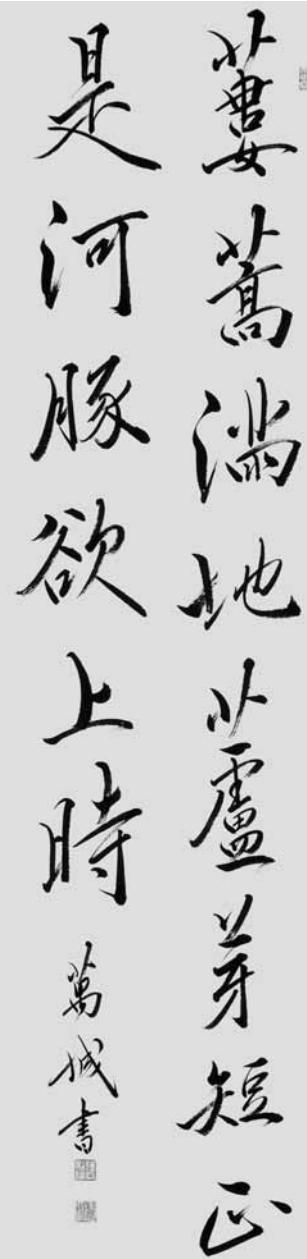
漢字条幅規定 初段以上 【六月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

## 習い方解説 (二)

種谷萬城



蘆高滿地蘆芽短

正 是 河豚 欲 上 時

(蘇軾「惠崇春江晚景」)

(蘆高滿地に満ち蘆芽短し、正にはれ河豚上らんと欲するの時)

書体=自由

先月号に続く、蘇軾詩『惠崇春江晚景』の後半部分です。フグは4、5月頃に産卵のため近海から河川を遡上。シロヨモギやアシの芽と一緒に煮て食すと中毒しないという。美家の蘇軾らしい詩です。今月は、繊細で変化に富む行書・褚遂良『枯樹賦』を倣書しました。様々な名筆の臨書と倣書で、しっかりと行書を学んで下さい。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【六月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄選書

## 習い方解説 (二)

千葉蒼玄

王羲之は書聖と呼ばれ伝統的な基礎を作り後世の書人に及ぼした影響は大きい。字形は1000年以上もの間変わっていない。後世、明清調と呼ばれる連绵草の作風が現れるが、王鐸は一日創作、一日臨書といって王羲之の臨書を数多く残している。作風は変化したが、字形の基本は王羲之である。



一筆開五葉 (禅語)  
(一筆開五葉を開く)

書体=自由

「集王聖教序」

王羲之

王羲之は書聖と呼ばれ伝統的な基礎を作り後世の書人に及ぼした影響は大きい。字形は1000年以上もの間変わっていない。後世、明清調と呼ばれる連绵草の作風が現れるが、王鐸は一日創作、一日臨書といって王羲之の臨書を数多く残している。作風は変化したが、字形の基本は王羲之である。

北村白琉

ふらんすへ行きたーと思へども  
ふらんすはあまりに遠し

せめては新しき背広をきて

きまますなる旅にいでてみん

朔太郎詩「旅上」より 白琉書

今回は萩原朔太郎の有名な詩「旅上」の一節です。前回よりもかな文字が多い分、少し柔らかい表現になりました。

ペン字が苦手だったと言う先輩が、以前「粘葉本和漢朗詠集」をペンで熱心に臨書した上で書いた作品を、初めて先生に誉められ、以後ペン字も得意になったと伺いました。和漢朗詠集は漢字、かなの調和の勉強にもぴったりの古筆だと思います。

ペン字も毛筆と同様に古典・古筆の臨書により、自己流に陥らず、実力をつけることができると思います。

ふらんすへ行きたしと思へども  
ふらんすはあまりに遠し

せめては新しき背広をきて  
きまますなる旅にいでてみん

朔太郎詩「旅上」より

書体=自由

◇用紙 ハガキ大(14×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!!  
用紙の大きさにばかりつきが見られます。  
用紙サイズ(14×10cm)を守って下さい。」

皐月 立夏 栃木県 群馬県

皐月 立夏 栃木県 群馬県

その後いかがお過ごじですか、爽やかな季節と  
その後いかがお過ごじですか、爽やかな季節と

大隅晃弘

(楷書) 皐月 立夏 栃木県 群馬県  
(楷書) その後いかがお過ごじですか、爽やかな季節と

(行書) 皐月 立夏 栃木県 群馬県  
(行書) その後いかがお過ごじですか、爽やかな季節と

基本用語 「皐月」旧暦5月の別称。「立夏」暦の上で夏に入る日。5月5、6日頃。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)  
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

# ホープ作品 各部総評

No. 731

ペン字部 師範 多胡三千代  
洗練された線質で軽快な作。落款まで配慮し、新鮮で心のこもった作となっている。

◎ペン字部総評 行草体の手本であつたが、遙(遙)の草書体の誤字作品が多數みられた。草書体を字典で確認しよう。(仙草評)

幸せは。  
あなた(の)心の内にある  
それ仏法遙かに非ず(心中にて即ち  
近し・真如外に非ず)身を棄て、  
何にか求めん。(般若心経秘鍵)  
求めている大切なものは身近にある

二千代翁



筆致句

現代詩文書部 特選 有澤 溪翠

独得の紙面構成。緊密な文字集団の黒と白とが生み出す余白の美しさ見事。表情豊かで温かい。

◎現代詩文書部総評 現詩は実に手強い相手です。古典での線質等の修練は最も大切です。(宗苑評)



前衛書部 特選 鳴海 桂泉

直線曲線の巧みな造形が紙面全体にバランスよく配置され会心の作品。

◎前衛書部総評 多彩な線質の表現や構図の独自性を主張した作多数あり。頑張れ!(仙岳評)

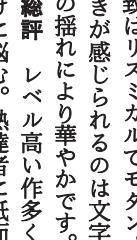


かな部 師範 新井 恵子

余白に動きが感じられるのは文字の左右への揺れにより華やかです。ランク分けに悩む。熟達者に紙面の端までの極端な使用が散見で残念。バランスを大切に。(明子評)

◎かな部総評 レベル高い作多く

の端までの極端な使用が散見で残念。バランスを大切に。(明子評)



筆致句

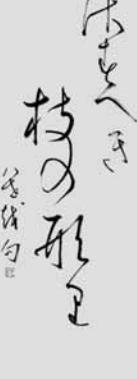
漢字条幅部 師範 田中 一葉

木簡隸風をよく学ばれ、のびやかさと共に全体のまとまりもよい。

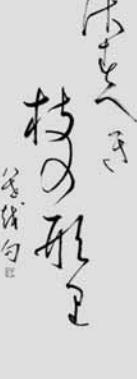
◎漢字条幅部総評 年2回の横形式に大分慣れたように思います。

左右の余白、行間の取り方など書体も幅広い表現でした。(鄭街評)

楷書は基礎力を養う意味でしっかり多様な書風への挑戦を。(大雲評)



筆致句



かな条幅部 準師 池田 信子  
伸びやかな線条と墨の濃淡が美しく落ちついた構成で余白の生かしが見事。落隸の位置も良い。

◎かな条幅部総評 俳句は字数が少ないせいか字粒の大きすぎる作品が目立った。枝の木偏が手偏に見える作もあり要注意。(峰子評)

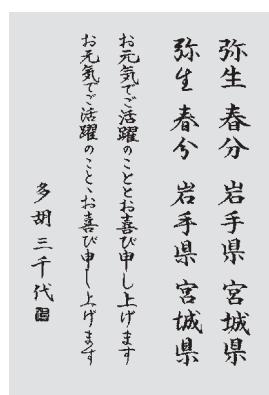
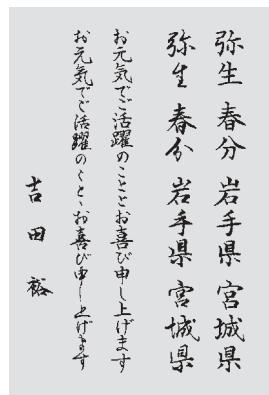


# 実用書優秀作品

## 選評 大平邑峰

### ◎実用書部総評

真摯な学習姿勢の作多く、審査に難渋した。穂先のよくきく筆を用い、り  
ズムよく書き通す訓練を繰り返すことをお奨めします。  
(邑峰評)



麗澤誠立	竹美	椿翠	白珠	書泉	清月	華仙	四枝	芳蘭	楓会	大雲	深大	吉田	裕
仙友和精	ここ	有秋	及川	華	月	大雲	誠和	大雲	楓会	吉田	吉田	吉田	吉田
須篠佐久菊加藤	秋	永井	西山	関口	小林	菊地	石毛	鷺山	多胡三千代	多胡三千代	多胡三千代	多胡三千代	多胡三千代
藤塚川保地	安嶋真砂子	武藤ちとせ	天峰	天峰	嘉江	惠水	明美	喜蘭	美梢	甘雨	麻美	裕	裕
萩謙紅天白翠龍華	雨心輝鈴雅陽華	翠龍華	天白翠	龍華	天白翠	翠龍華	天白翠	喜蘭	甘雨	美梢	甘雨	裕	裕
佳作													
千華千東	玉川かだ	梨天	中川	高真	八大	深大	紅	一華	森地	高橋千代子	絹子	一琴	一琴
葉祥句	かだ	梢	心川	"	"	街	大阪瑤	桜草	たか	東平	佳恵	佳恵	佳恵
竹高鈴菅篠佐木	北爪	河合伊	勝野大島	岩上	井ノ口	伊藤磯貝	相澤	八街	江	高橋千代子	絹子	一琴	一琴
浪木野渡	伊	久子	淳子	郁子	春峰	照子	天羽多敷子	雲	保谷	浜野	永草	絹子	絹子
叙昭津静美和舟華	奈乃代	右乃代	和舟華	郁子	竹鳳	光子	恵子	高春幸成	松野	美奈子	和江	正子	正子
(選外)													
大竹雲美雀仙	華蘭街習	A	粹澄長墨洞掃	高春幸成	一も	八立江岱	精龍翠	千田	勝見	千田	千田	千田	千田
渡横山崎	山口	三松	堀藤深澤	汀扇育	一	月縁書	雲	須塚部	須塚部	須塚部	須塚部	須塚部	須塚部
名氏略	妙蘭柴雪香	小愛幸	龍佳典	洋竹	二	高崎汀	高	本	本	本	本	本	本
華舟心翠苑樹石泉仙月子	世乃	奈乃代	和舟華	敦子	中	月	仙	戸塚	戸塚	戸塚	戸塚	戸塚	戸塚

## 前衛書部(特選)

## 現代詩文書部(特選)



茜紫佳美由  
香月千龍  
史江千芳子  
菊地香苑

大胆な構成、立体感あり  
余韻ひびくシャープな線  
骨力ある筆致気力充実  
明快で心地よい表現よい  
重厚な力作、躍動感見事  
大切な線のタッチ感銘  
淡墨による筆先の表現見事  
軽妙な筆運びに工夫あり

選評 大石仙岳

紅霞  
淑子  
白香  
華燐  
和加江  
杏雲

喜代美香  
千恵子  
素直で清澄な空間を表す  
豊かな表情が感じられる  
強韌な筆意、躍动感溢れる  
軽快なリズムで立体感大  
破筆効果を生かし魅力的  
素直で清澄な空間を表す  
表情ある線で詩情を説く  
スケール大、自然で温か

恵正子  
華雨  
雪華  
千恵子  
千恵子  
千恵子

穂先を響かせ氣力充実  
骨力ある線で動きも大  
軽快なリズム奏でている  
温かく優しい思い充溢  
墨量の変化妙、余裕の作  
ゆとりある筆致で柔和  
起伏に富んだ構成美新鮮  
線質深く和やかな情趣  
線清澄、爽快な空気感あり

京蘭仙  
千恵子  
千恵子  
千恵子  
千恵子  
千恵子

筆力大、潤いある豊かさ  
穂先を響かせ氣力充実  
骨力ある線で動きも大  
軽快なリズム奏でている  
温かく優しい思い充溢  
墨量の変化妙、余裕の作

選評 熊谷宗苑

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 白石和楓 三浦鄭街 倉林紅瑠

## 小品の部

前衛書 (宮古)

長澤紅苑  
「王による」



長澤紅苑書

135×36cm

◆濃墨による重量感と気迫に満ちた表現作。渴筆の強い嚴

しい線を盛り込むと紙面に立体感が生まれる。

(紅瑠評)

◆濃墨を駆使しボリュームある線質でゆったりと表現。のびやかに広がりのある作品となった。(魏街評)

玉渕良章臨



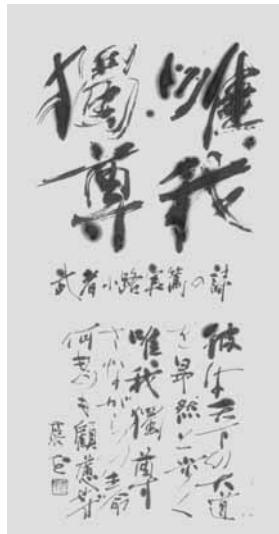
138×35cm

臨書 (華祥社) 玉渕良章 「樓蘭晋簡」

坂本 蓉花書

現代詩文書 (葵花)

坂本 蓉花  
「唯我独尊」



70×35cm

◆独特な墨色の滲みと小字の自然なリズムがマッチ。爽やかで明快な作品、構成もいい。

(和楓評)

臨書 (大雲) 神谷雲卿 「緒色紙」

部分拡大



34.7×136.4cm

神谷雲卿臨

◆緒色紙は、形だけ模倣しても古筆の生彩感はないが、自分のリズムで書き熟した点に魅力を感じる。

(洋子評)

清月境野  
八華素八大紅英「前衛」  
月光街祥原雪街峰「漢字」  
月かな佐三加佐坂十名原吉瀬  
月かな佐藤藤本河取島瀬  
月和子光小和奎芳春美春彩  
月耀樹栄山博景紬汀雨

大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

八大紅英「前衛」  
峰「漢字」  
松本秀皋  
茂木高橋  
尾形塚田  
玄宮香宗  
香宗苑  
「かな」  
谷知裕  
川谷相内  
「かな」  
澤富田  
白珠相内  
瑞翠  
珠莉  
蒼美翠  
江霞  
水香  
蒼美翠  
江霞  
水香

<小品の部>

創作の部(35点)

漢字 - 6点

前衛 - 8点

漢字 - 19点

漢字 - 1点

漢字 - 42点

漢字 - 3点

漢字 - 1点

# 大作の部

前衛書 (秀恵)  
阿部雅悠  
「春霞」



阿部雅悠書

180×60cm

◆宿墨による広  
がりある滲みが  
印象的。瞬発す  
る飛沫が紙面に  
大きなリズムを  
生み出して立体  
感溢れる作とな  
った。(紅瑠評)

金井みどり臨

◆樓蘭出土の行  
書木簡を濃墨で、  
二層紙 (2.8×  
5.8 尺) 3行書きの  
堂々とした臨書  
作。長い呼吸で  
書き切った感あ  
り。古典に向か  
う真摯な姿勢に  
感動。(鄭街評)

臨書 (紅瑠)  
金井みどり  
「樓蘭晉簡」



176×78cm

◆2段が大小、太細、広狭と巧く整す。しっかりした線が  
確かな連綿に支えられ、氣韻漂う力作になった。(洋子評)

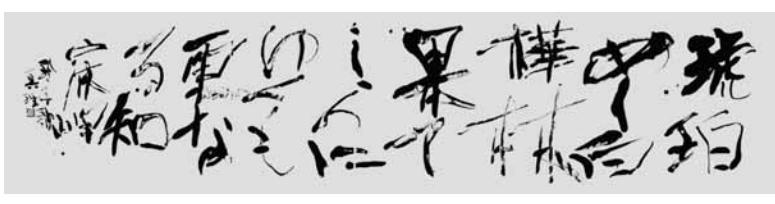
藤井紫香書

160×45cm

かな (奥田)  
藤井紫香  
「山川に」



現代詩文書 (宗苑) 白井真理 「千葉玲子の歌」



白井真理書

53×225cm

◆重厚な濃墨ではじ  
まり、リズム良く、  
暢びやかな横展開の  
見事な作。落款まで  
氣脈が通じている。  
(和楓評)

千葉玲子  
「かな」  
猪又理扇

高真岩上  
樹原紹野  
紅瑠木暮  
「漢字」  
(臨書の部)

月華中塩  
玉州遠藤  
青蓮佐々木  
紅瑠松雲  
「漢字」  
(臨書の部)

「漢字」  
(創作の部)

「漢字」  
(特選候補者)

「漢字」  
(創作の部)

「漢字」  
(創作の部)

「漢字」  
(特選候補者)

「漢字」  
(特選候補者)

「漢字」  
(特選候補者)

## 創作の部 <大作の部>

## 創作の部 <大作の部>

創作の部 (27点)

漢字 - 3点

かな - 8点

現代 - 4点

前衛 - 12点

漢字 - 10点

かな - 2点

**総出品点数  
39点**

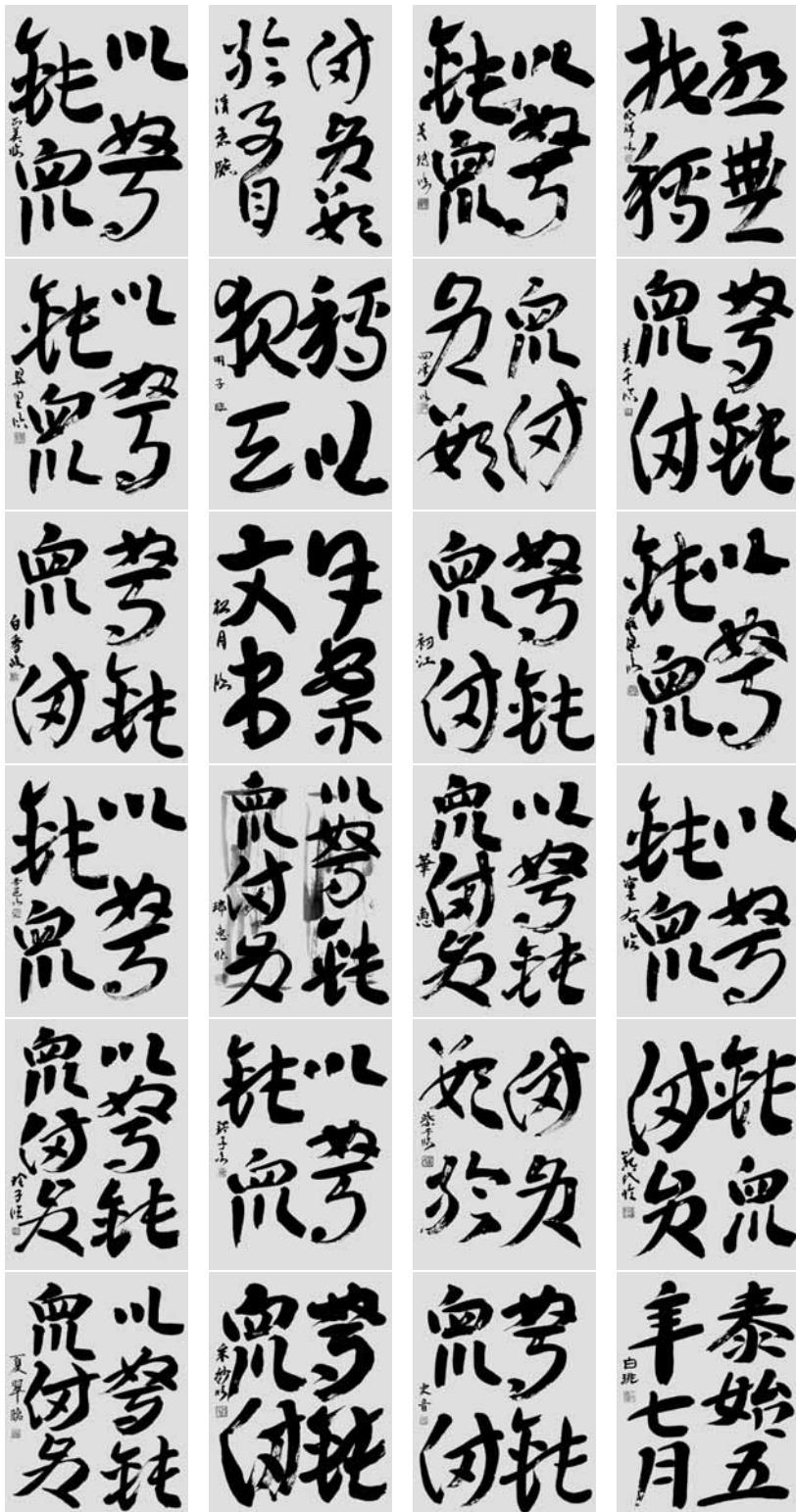
漢字研究部  
(行草木簡)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



小木曾 泰香



夏玲杏白翠正  
翠子邑香里美

采玲瑞優明清  
紗子惠香子麗

史紫華初四芳  
音千惠江峰博

白範篁雅美明  
珧代右悠千祥

漢字研究部 特選 小木曾 泰香

素朴にして伸びやかな木簡の特徴を見事に表現しています。さらに奔放な用筆と、空間のリズムが感じられる秀作です。

◎漢字研究部総評

不明瞭な筆路が多い木簡ですが、写真を見るがままに字形をまねて書かれた作品も少な

くありませんでした。隸書体や草書体の字形や、字典から考えられる筆路を念頭に、じっくり見ていくばく自ずとどのような運筆で書かれているかが見えてくるものと考えます。また、臨書の作品としてとらえた時に、作品の余白の美も念頭に、選んだ文字の結体から用紙に字数をどのくらいにするかも考えながら書くことも大切かと思います。

かな研究部  
(緑色紙)

運評 佐藤 希雲

今月のホープ作品



小林 嘉江

◎かな研究部総評  
かな研究部特選 小林嘉江  
筆の穂先がよく活躍し、メリハリのついた佳作となっています。静かの中に凜と張りつめた緊張感もあり、何より線の強さが魅力的です。  
難しい課題に四苦八苦している様子がうかがえました。臨書といえども作品創りに変わりはないので、何を主張したいのか決めておくのも大切で



紫翠和  
蘭景美

美麻香  
悠美舟

美幸葵  
和泉郷

志恵  
津朗  
子水

白書和大堺光紅  
珠游平雲 彩瑠秀

正やは上う菊桜千天玄澄文千書姪正紅こA玉桜華上清  
華ま華せ泉の月草葉璋穹春筆葉泉と華瑠だ!松草仙泉月

貝井磯石浅藍秀  
瀬野上貝田川澤作  
みるみる英清悦な白  
佳よ楓二羅子江珠

柴田石長飯飯新苗久中千植熊松七安岡須北堀青守菊早小  
田玉米谷高井代保里葉田谷重五藤田田爪江木友地部林  
志知木木木木木木木木木木木木木木木木木木木木木木木  
洋哲津久陽光惠佳智星陽紅紫翠和美麻香美幸葵津惠  
佳子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子  
生恩美子子雨蘭景美悠美舟和泉郷子水郎江

もく  
佳  
新井作  
藤雪

惠華や椿竹中高上大た水青白上高大春立紅沙澄竜正澄八春大素澄う立大天  
仙島ま翠美川真泉雲か海蓮珠泉真雲陽精水莉春泉華春生汀雲雪春るの雲心

渡山山安八三松木堀浜根沼西中鶴積土千田瀧高高杉新築佐驚坂齋木菊河勝  
邊本口島木田尾多切野岸田山村渕田谷田原口橋橋浦行田々山本藤村地合野  
眞橋有とととましますすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす  
信美律砂紀蒼和幸永み奎葵ゲア雅つ白紅み幸雅幸瑞美淳美芳順白和淳  
代楓子舟舟子枝雲莢子心龍子希雲江月子苑泉子華子梢博香子雅敬子

さ文松  
入

正竹こ明竹華八華大石椿一上高大森書も春四玉有桜有甲 竹明華秀光清こ秀 大英千春正こ樹上中こした誠澄高  
華原だ漢美仙街祥雲習翠弦泉崎雲地泉く汀枝松秋草秋和 原漢仙歌彩月だ歎”雲峰葉汀華こ原泉川だか和春島

明青石木  
澤幸

渡吉吉横柳村三三松平早萩二名永永戸渡塚田武高高鈴代嶋篠椎櫻境小小黒草吉菊河金加葛柏大梅鶴字飯  
邊野田山瀬浦丸山坂原通取田井部子田中山橋橋藤木田塚名田野舗千 千 千 千 千 千 千 千 千 千  
与 美か

麗知玉子枝

美桜鶴蘭奈佳智道愛つ聖洋麗美真伯藤紀美耶花美代松睦葉祢謙光龍和惠子直竹真彩泰幸真翠恵和竹虹代琴楠律子

墨書祥土香扇高蘭た大翠玉硯春竹大蕙高潮樹春大竜蒼附有祥梓蘭秀富澄華澄玄

正秀椿渡高A土わ久澄誠橋華森こ水遊澄

鈴鈴杉杉須新清島猿佐佐佐佐佐櫻佐坂酒齋紺小高吳熊國刑北川加金加尾大大大大大樫生白印岩岩入伊板池五飯安阿

木木木田賀條水田渡藤藤タタ田久本井藤野西武 井峰部村元崎納谷杉藤瀬形湊巣野島沢田方井東剝瀬谷由垣田十泉部天坊

澤幸木木間

はあ千由田風凰子はるか鶴昌淳和美綾正祥祥悠王青幸佳洋明洗子

節谿睦祥一三幸貴草陽千絆雅和智澄里知杏遊幸玄豊宏琴裕志茱優順美紫雅夏紅るか鶴昌淳和美綾正祥祥悠王青幸佳洋明洗

子琳子風起郎子右子秋奈芳子舟華美子邑山子城美子翠美子仙子子和峰芳峰霞なり子子子子子子子子子子子子子子子子子

はあ千由田風凰子はるか鶴昌淳和美綾正祥祥悠王青幸佳洋明洗子

遷春京東幸祥青華蘭高松春墨白千幕高澄華蓮大紅生掃も澄長華長説正東土幸士柳遊誉一誉

麗堤泉惠紅天玉青書竹玉白麗澤会石風璋川峰游風扇川露澤

外汀橋伯鳳紫蓮仙

崎村汀宣露葉張崎春仙紅阪風大雪く”春月祥月韻華向氣扇氣賢雲田草田

86渡吉山山山矢矢茂宮真松松増前本細船藤福福深深平樋原林林畠野西二長中中中中中富利辻田田田田田田田田

高高高高高高高高関春須名邊田本本田崎口部木野庭村鳩島浦田川田川津本富富堀澤山口澤 山村村澤上井村村野江田守

氏名貞佑真梅

美登 美喜 恵み 寿香 美美 美美

名貞佑真梅

雪香登翠津ケ陽節翠玉華瑛美静代喜牧惠清佳だ玉典余美芝奈幸瓊香久保一美よ瑠佳洋美代貞千徹小代慶萩

子子紀香京惠翠苑江芳枝ミ子子舟江秀仙雪子子惠子子洗月子葉子子子香々城美柳仙子琴子子翠理子石子子代子秋子子雨

書

展



会場風景



ギャラリーコンセプト21

故永井幸子先生が創立された「玉松会」は、書道芸術院かな部を支える二大団体、下谷洋子先生主宰の「書泉会」と共に精力的な活動を続けてこられた。对外的な活動舞台である毎日書道展、書道芸術院展を柱とし、根幹である社中展としての「玉松会書展」は今回55回展の節目を迎えた。昨年までは銀座かねまつホールや鳩居堂画廊など、やや小ぶりな会場で開催されていたが、今回は55回の記念展として東京銀座画廊美術館7階の広い会場での開催となった。出品作品は、永井幸子先生、先年ご逝去された山藤美智子先生の遺作を含め、80余名が大小様々な形式、多様な表装で発表、かな書展らしく華やかで情緒溢れる雰囲気を醸し出していた。

展示各品について少々触れてみたい。永井幸子先生ご遺作は、壁面に3点ケースに1点計4点が展示され、永井先生らしいおおらかで伸びやかな逸品が一際魅力を發揮していた。4点それが作風の変化が永井先生の生前の活躍ぶりを彷彿とさせてくれる。「洋ちゃん」と呼んでくれた笑顔が浮かぶ。

石井明子代表はパビルス3枚を張り交せて、清水比庵の歌を伸びやかに展

真下京子近作展  
いたおやかに・あでやかにー

大平邑峰

真下京子近作展  
いたおやかに・あでやかにー

形となつて目に飛び込んできました。先生独自の手法による作品は、絶妙な配置と相まってギャラリーの雰囲気にぴたりと調和されており、現代書の有り様を示してくださっているかのようでもありました。思いのこもった作りの過程も推し量られ、感じ入りました。ご家族との別れがきつかけとなりました出会いと別れをモチーフにしたされた出来、染織家の方とコラボした斬新な意匠の作品など本当に楽しく拝見させていただきました。年にわたり培われた芸術観、表現力、そして溢れんばかりの創作意欲にただただ脱帽の思いで会場を後にしました。

展示作品は全て前衛書、墨の粒子が紙の上で様々な姿に変化し、不思議な形となつて目に飛び込んできました。

紙の上で様々な姿に変化し、不思議な形となつて目に飛び込んできました。

第55回記念  
玉松会書展 参観記

会期＝令和4年4月5日（火）～4月10日（日）

会場＝東京銀座画廊美術館

開、幹部役員としての2点目は同じ比庵の短歌を3×3尺くらいの正方形の料紙に、大胆に展開し、境地の変化を見せている。見越雪枝さんの2×8尺横展開は、ぼかしの料紙に広やかに表現された意味よく冴えた線の響きが美しい。奥田瑞舟さんは会津八一の歌を縦長二連に力強く書き流して、存在感を発揮する。

小島孝予さんの芭蕉の句は、薄桃色のぼかしの料紙に広やかに表現された心温まる作。

他にも心惹かれる作が多くあるが、紙幅が尽きご容赦を。総じてかな表現の正統、本道を行く作が中心で、あまり派手ではないものの、落ち着いた雰囲気としつとりとした、華やかさの漂う記念展であった。

今後益々のご隆盛をお祈りしたい。

令和4年4月の佳き日に  
辻元大雲



第55回記念 玉松会書展会場風景

## ●篆刻

【六月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①篆刻

(ア)課題による語句  
(イ)原印自由  
(出典の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由



### ◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
令和四年四月二十五日印 刷  
行 発 行 日

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七三三号

731号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

篆刻

<特選>



「竟山」

創作



「春景」

(篆刻)

佳作(60音)

(創作)

佳作(60音)

秀	大雲	芳琴	秀	遊雲	特選	中川	研治
北文筆	中日	大雲	秀	作(60音)	中川	研治	
林成田	成田	小沢	幸喜	作(60音)	遊雲	特選	
淳能喜	能喜	関谷香代子	華仙	入選(60音)	大綱	片岡	
(還外なし)				丸山	やま	鷺山	

秀	大雲	生天	大綱	片岡	佳作(60音)	特選	金谷	皓洋
粹富	富生	慈石	大雲	鷺山	佳作(60音)	中川	研治	
仙見	見	吉原	大雲	美梢	入選(60音)	遊雲	特選	
藤井	木昌	須賀澤	加藤	進	大綱	中川	研治	
(還外なし)		一	妙子		片岡	遊雲	特選	

秀	大雲	小映	特選	金谷	皓洋
中坂	本	金谷	中川	研治	
龍紫	蘭	皓洋	遊雲	特選	
富生	慈石	大雲	大雲	佳作(60音)	
見	吉原	吉原	吉原	入選(60音)	

秀	大雲	水堅	佳作(60音)	特選	金谷	皓洋
游	水恩	伊澤	佳作(60音)	中川	研治	
枝	惠雲	京橋	入選(60音)	遊雲	特選	
游	唯一	茂木	大雲	佳作(60音)	金谷	皓洋
(還外なし)		口田	吉原	入選(60音)	中川	研治

定価 一部 七五〇円

令和四年四月二十五日印刷  
令和四年五月一日発行

編集兼

発行人

辻元洋一(大雲)

アーティスト

印 刷

株式会社

リソングラス

印 刷

小沢写真印刷株式会社

発行所

公益財団法人

書道芸術院

101-0031

電話(03)3861-1954

FAX(03)3861-1957

振替

東京都千代田区東神田一丁目五十五番五

号

http://www.lmso.jp/shohei/

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
東京都千代田区  
東神田一丁目五十五番五  
東神田プラザビル三階  
FAX(03)3861-1954  
101-0031

コロナ禍の中、当分の間十時まで  
十六時に時間の変更しております。  
お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日(金曜日九時~十七時の間)  
にお願いします。(土・日・祝日は休む)

電話(03)3861-1954  
FAX(03)3861-1957  
101-0031

公益財団法人書道芸術院